

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

ハートフル・ワード (心からの言葉)

経営者への活きた言葉

才覚をコントロールするものが人格である 稲盛和夫 (京セラ名誉顧問)

1. 日本には、「才子、才に倒れる」という格言があります。「才覚」に恵まれた人は、その並みはずれた才能をもって、大きな成功を収めるけれども、その「才覚」を過信し、あるいはその使い方を誤り、やがて破綻に至るということを、日本の先人は説き、人々を戒めてきました。
2. 人並みはずれた「才覚」の持ち主であればあるほど、それらの力をコントロールするものが必要となります。私はそれが「人格」であり、この「人格」を高めるために、哲学や宗教などを通じ、「人間として正しい生き方」を繰り返し学ばなければならないと考えています。
3. 素晴らしい「才覚」を発揮したなら、一旦成功できるでしょう。しかし、「人格」に問題があるため、いつしか私利私欲のために、不正を働くことになるかもしれません。逆に、生まれつきの「性格」が至らないものだったとしても、その後の人生で素晴らしい聖賢の考えに触れ、人間として正しい生き方を学んでいくなれば、後天的に素晴らしい「人格」になることができるはずです。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2019年3月23日号)

幹部への活きた言葉

面倒なことを見習い小僧の心でやり続ける

塩沼 亮潤 (大阿闍梨)

1. 私たちは弱い人間ですから、お金や権力を得れば、気持ちよくなっていく。しかし、それは大きな錯覚です。権力など、かりそめのものです。「仕事」とは、「人にお仕えする」という意味。仕事を通して、内面を成長させることこそが、人生修行なのです。小欲知足。欲しからず、足るを知ることが大切です。
2. 私たちができることは、善い行いを一日一日繰り返すことだけ。それはいつしかその人の身に付く。多くの人が善い行いを実践すれば、おのずと社会は変わっていく。合理的で便利なデジタル社会も善し悪しです。アナログ的な面倒臭いことを、いつまでも見習い小僧の心でやり続けることです。

(参考:「Wedge」:2019年5月号)

経営者のための理念・哲学

千里の行も足下に始まる

数土 文夫 (JFEホールディング特別顧問)

1. 千里の長丁場には継続力が求められ、志の有無が大きく関わってきます。これについて渋沢栄一は、大立志と小立志という考え方を記しています。根幹となる大立志が途中で他に転ずることのないように、その枝葉となるいくつかの小さな立志から達成していくことが肝要。千里の道に近道はないことを示唆しています。
2. 秀吉は、草履取りの仕事を工夫して誠実に勤め、武将の任を全うしたからこそ、信長が破格の抜擢をしました。「吾十有五にして学に志し」という孔子は、二十代には倉庫番や家畜係の仕事に誠実に取り組みました。二人が千里の先にある大立志を見据えつつ、小立志と真剣に向き合ったことは、貴重な教訓です。

(参考:「致知」2019年5月号)

古典に学ぶ

机上の読書は不可である

(解説) 人の世に成功するの要素として、知の必要なること、すなわち学問の必要なることはもちろんであるが、それのみをもって直ちに成功し得るものと思うは、多いなる誤解である。

つまり、机上の読書のみを学問と思うのは甚だ不可のことである。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)